



Title	京都府福知山市方言におけるテヤ敬語の運用について
Author(s)	福居, 亜耶
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2015, 13, p. 28-51
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/51436
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

京都府福知山市方言におけるテヤ敬語の運用について

福居 亜耶

【キーワード】 方言敬語、テヤ敬語、序列敬語、自然談話

【要旨】

本稿では、京都府福知山市方言におけるテヤ敬語について、中年層女性の家族・親族内での会話を調査することで、以下のような運用ルールを提示した。

A 群：第三者待遇において

- (A)：話し手にとって話題の人物が家族でない場合はテヤ敬語を使用する。
- (A-2)：(A)が適用されないとき、話し手よりも話題の人物が年上の場合テヤ敬語を使用する。
- (A-3)：(A-2)が適用されないとき、基本的にテヤ敬語は使用しない。
- (A-3')：(A-2)が適用されないとき、基本的にはテヤ敬語を使用しないが、話題の人物が聞き手よりも年上の場合にはテヤ敬語を使用することがある。

B 群：対者待遇において

- (B)：話し手にとって聞き手（＝話題の人物）が家族である場合はテヤ敬語を使用しない。
- (B-2)：(B)が適用されないとき、話し手よりも聞き手（＝話題の人物）が年上の場合テヤ敬語を使用する。
- (B-3)：(B-2)が適用されないとき、聞き手（＝話題の人物）が話し手と非常に親しい場合はテヤ敬語を使用しない。
- (B-4)：(B-3)が適用されないとき、テヤ敬語を使用する。

1. はじめに

各地方にはその地方独自のさまざまな敬語表現が存在する。特に西日本の方言には多くの敬語形式が存在し、その運用もさまざまである。多くの先行研究で指摘されているように、各方言における方言敬語と共通語敬語にはさまざまな相違がある。その相違の一例として、方言敬語には絶対敬語的な身内尊敬用法が残存しているといわれる。

身内尊敬用法がある方言敬語のひとつとして、「テヤ敬語」があげられる。テヤ敬語とは、関西以西を中心とした各地方の方言において、「動詞＋テ＋ダ・ジャ・ヤ（いわゆる指定助動詞と形態が同じもの）」で上向きの待遇をあらわす敬語形式のことである¹⁾。

(1) あした、先生が学校に来テや。(あした、先生が学校に来られる。)

(2) きのう、先生が学校に来タった。(きのう、先生が学校に来られた。)

(姫路市方言の例 篠原 2005b : 49)

1) 本稿では、引用する場合は元の文献のまま、筆者の作例の場合はテヤ敬語のテの部分（過去形の場合はチャの部分）をカタカナであらわす。特に引用の記載がないものは筆者の作例である。

このテヤ敬語を構成する要素である動詞連用形・接続助詞テ・指定助動詞はどれも単独では上向きの待遇をあらわす機能を持っていない。それにも関わらず、「動詞連用形+テ+指定助動詞」の形式では上向きの待遇になることから、これまでテヤ敬語に関して数少ない数の研究が行われてきた。しかし、それらのうち、上方語に関する成立期の研究（山崎 1963、村上 2006 など）を除くと、方言としての現在のテヤ敬語の運用についての詳細な記述・研究（藤原 1978、篠原 2005a、b など）は少ない。

先述のとおり、京都府福知山市方言においても、このテヤ敬語が盛んに用いられている。

(3) 先生が教室に来テや。

(4) 先生が教室に来チャった。

福知山市を含む中部丹波地域のことは地元民から「ちゃった弁」と呼ばれており、この呼び名はテヤ敬語の過去形チャッタに由来している。「ちゃった弁」と呼ばれる通り、地元民同士の会話にテヤ敬語は頻繁にあらわれる。このように地域に根ざした表現であるにも関わらず、当該地におけるテヤ敬語の詳細な記述はなされていない。さらに、その運用はいわゆる共通語敬語とは異なり、身内尊敬用法もみられ、それらの運用の記述・分析は方言敬語研究の分野において一定の意味を持つと考えられる。以上の理由から、本稿では京都府福知山市方言におけるテヤ敬語について、ある中年層女性話者の運用体系を中心に記述・分析を行う。

本稿の構成は以下の通りである。まず、運用の記述の前に 2 節で福知山市のテヤ敬語の語形を概観する。続く 3 節で調査概要を説明したのち、4 節では第三者待遇における運用ルールと調査結果について、5 節では対者待遇における運用ルールと調査結果について説明する。そのあと、6 節で考察を行い、最後に 7 節でまとめを述べる。

2. 福知山市方言におけるテヤ敬語の語形

テヤ敬語運用の調査報告に入る前に、本節では福知山市方言におけるテヤ敬語の語形を概観する。記述は、筆者の内省による²⁾。福知山市方言には 2 種類のテヤ敬語が存在し、(5)、(6) はともにテヤ敬語の非過去形である。

(5) 先生が黒板に文字を書いテや。

(6) 先生が黒板に文字を書いチャ。

現在、「チャ」の形は中年層以上しか使用しないが、中年層以上は「チャ」の形と「テヤ」の形を併用している。また、年齢が上がるほど、「チャ」と「テヤ」を併用する人の割合が増える。使う相手や意味に差はない³⁾ ので、4 節以降でみる談話資料の集計では「テヤ」の形も「チャ」の形もテヤ敬語として同様に扱った。

(7) 先生が黒板に文字を書いチャった。

(7) はテヤ敬語の過去形である。上記の (5)「テヤ」の形も (6)「チャ」の形も過去形は同じく「チャッタ」となる。「書いテヤった」とはいわない。そのほか福知山市方言におけるテヤ敬語の活用を、篠原 (2005a) を参考に以下表 1 にまとめる。

2) 居住歴については 3.2 節の表 2 を参照いただきたい。

3) YOF (インフォーマント情報は表 2) に確認したところ、このような回答であった。

表 1 福知山市方言におけるテヤ敬語活用概要

				普通体		丁寧体	
				肯定	否定	肯定	否定
終 止 形	のべた て形	断定形	非過去 形	書いテヤ 書いチャ	書いテない 書いチャない	書いテです	書いテないです
			過去形	書いチャった	書いテなかった 書いチャなかった	書いチャったで す	書いテなかったで す
		推量形	非過去 形	書いテヤろ 書いチャろ	書いテないやろ 書いチャないやろ	書いテでしょ	書いテないでしょ
			過去形	書いチャったや ろ	書いテなかったや ろ/書いチャなか ったやろ	書いチャったで しょ	書いテなかったで しょ
	さそいかけ形			×	×	×	×
	命令形			×	×	×	×
連 体 形			非過去 形	書いテン/書いテ の 書いっチャ	書いテない 書いチャない	-	-
			過去形	書いチャった	書いテなかった 書いチャなかった	-	-

表 1 を見ると、福知山市方言におけるテヤ敬語は大部分において「動詞連用形+テ+指定助動詞」のように分析できる。

(8) 書いテヤろ (N やろ) [推量・非過去・普通・肯定形]

(9) 書いテです (N です) [断定・非過去・丁寧・肯定形]

(10) {書いテン/書いテの} 人 (N の人) [連用形・非過去・普通・肯定]

ただし、以下の活用などでは「動詞連用形+テ+指定助動詞」とは分析できない。

(11) 書いテない (*N ない/N やない) [断定・非過去・普通・否定形]

テヤ敬語の分析としては、小西・井上 (2013) があり、富山県呉西地方におけるテヤ敬語は「～テ+尊敬の助動詞ヤル (ないしアル)」に由来する可能性を指摘している。福知山市方言におけるテヤ敬語の分析においても、小西・井上 (2013) の「～テ+ヤル」説を考慮して分析する必要があるかもしれない。本稿ではテヤ敬語の運用を主に扱うため、これ以上の分析は行わず、今後の課題とする。

3. 調査概要

3.1. 調査地概要

調査地域の位置を図 1 に示す。福知山市方言は、方言区画では丹波方言に分類される。本研究において京都府福知山市方言のテヤ敬語をとりあげた理由は主に次の 3 点による。

- (A) 京都府北部におけるテヤ敬語には身内尊敬用法が存在するが、その運用について、詳細な記述が行われていない。
- (B) その地域の方言は「ちゃった弁」(テヤ敬語の過去「チャッタ」に由来) と呼ばれる通りに、テヤ敬語が盛んに使用されている。
- (C) 筆者の出身地であり、内省がきく。

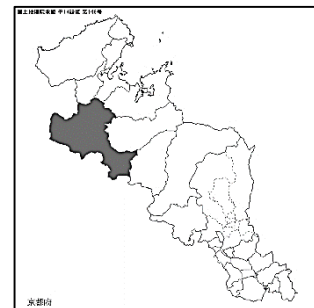


図 1 福知山市の位置

3.2. インフォーマント情報

表2にインフォーマント情報を示す。これらのインフォーマントは談話に話し手として登場する人物である。また、談話に話し手として現れる RES は筆者のことである。本稿においてデータを整理・分析し、取り上げるのは SFF (51 歳・女性) である。

表2 インフォーマント情報

ID	性別	年齢 ⁴⁾	居住歴	職業等
SFF	女	51	0-19: 福知山市、19-22: 京都市、22-現在: 福知山市	教師
HFM	男	63	0-20: 福知山市、20-35: 京都市、35-現在: 福知山市	元公務員
NFM	男	25	0-18: 福知山市、18-20: 東京都調布市、 20-現在: 東京都文京区	大学院生
SFM	男	22	0-18: 福知山市、18-現在: 島根県松江市	大学生
TFM	男	15	0-現在: 福知山市	高校生
YBM	男	56	0-18: 福知山市、18-22: 山梨県、22-現在: 福知山市	教師
KBF	女	47	0-18: 福知山市、18-19: 京都市、19-現在: 福知山市	主婦
TIF	女	64	0-33: 福知山市、33-37: 宝塚市、43-現在: 福知山市	主婦
MIF	女	37	0-7: 福知山市、7-11: 宝塚市、11-18: 福知山市、 18-22: 岡山県高梁市、23-現在: 福知山市	学生
YOF	女	85	0-18: 福知山市、18-22: 京都市、22-現在: 福知山市	元教師・元保育士
SMF	女	80	0-33: 福知山市、33-現在: 福知山市 (旧大江町域内)	主婦 (農業)

なお、談話資料はすべて家族・親族関係にある者同士の会話である。インフォーマントの親族関係を以下図2に示す (RES は筆者)。

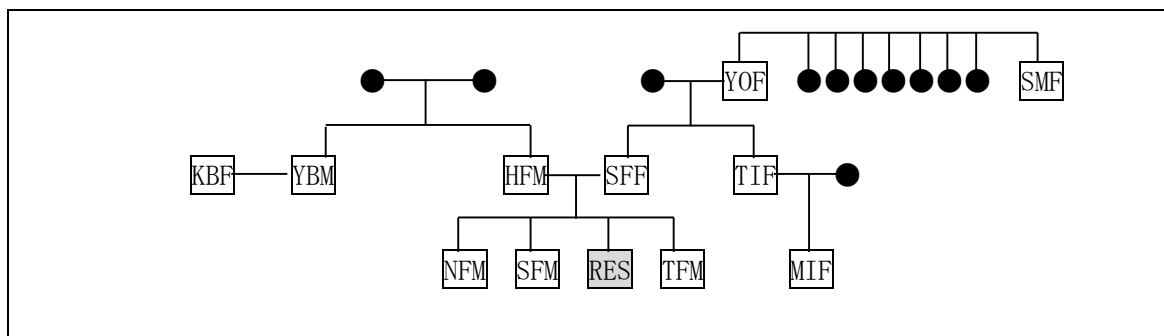


図2 インフォーマントの関係図

3.3. 調査・分析方法

3.3.1. 調査・分析の流れ

調査は談話資料分析を中心とし、補助手段として面接調査も行った。談話資料の分析は

4) 年齢は談話収録時のもの。

辻（2009）を参考に、以下の手順で行った。

- ①談話資料中にある動詞述語のうち、テヤ敬語があらわれうるものを抽出する。ただし、発言・心情を引用したと思われるものは、分析対象から除く⁵⁾。また、篠原（2005a）に倣い、テヤ敬語があらわれうる動詞述語でも、分析対象から外したものがある⁶⁾。
- ②その動詞述語の主語を特定する（今回は単数主体で、インフォーマントと具体的な関係を有するものを分析対象とした⁷⁾。なお、テヤ敬語が用いられていない動詞述語も分析対象として抽出）。
- ③さらに、動詞述語があらわれた発話の聞き手も特定する⁸⁾。
- ④インフォーマントのテヤ敬語運用状況から、どのような人物・場合にテヤ敬語が用いられているのかを明らかにする。
- ⑤例外的な用例があった場合は、どのような文脈・言語環境で使用されたのか、分析を行う。
- ⑥それぞれのインフォーマントの運用について、年齢や性別によってある傾向がみられる場合は、相互に比較し、その体系を検討する。
- ⑦分析の補助手段として面接調査も行い、解釈を補強する（cf. § 3.3.3.）。

3.3.2. 談話資料について

以下表 3 に今回使用する談話資料の概要を示す。すべて家族・親族内のカジュアル場面

- 5) 直接引用は分析対象から除き、間接引用は分析対象に含めた。迷ったものは除いた。
- 6) 篠原（2005a）では、あらわれた動詞を A と B の 2 種類に分け、そのうち A のみを分析対象としている。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> A-1. 文末の動詞 A-2. 文末以外の位置の動詞で、主語を同じくする動詞が文のより後方にあるもの B. 文末以外の位置の動詞で、主語を同じくする動詞が文のより後方にあるもの </div>	<p>(A-1 の例) その妹さんがな お寺へ 嫁入りしとっテン。</p> <p>(A-2 の例) そいから お婆ちゃんが へ あの ほらー 90 で 死んだって もー それから 15 年も たったんや。</p> <p>(B. の例) おじいちゃん 帰って。 ご飯 食ベタった。</p> <p>(B. の例) んー 家も ちっさかったし あのー お父さんが 似顔絵描きしたり ほいから 代筆しよったった。</p> <p style="text-align: right;">※主語を□で囲んである。 (篠原 2005a)</p>
--	--

今回も上に倣って、分析対象を選定した。

- 7) 「具体的な関係」とはお互いに面識があることを基準に選定した。例えば、自身が通う病院の医師は分析対象であるが、政治家や著名人など話者が一方的に知っている人物は分析対象から除いた。
- 8) 「聞き手」の特定は、以下①～⑤を基準に行った。①その発話が行われた時点で談話参加者が 2 名のときは、話し手ではない方を聞き手とする。②会話のはじまりなどで、明らかに特定の誰かに話しかけていることがわかる場合は、話しかけた相手を聞き手とする。③その発話が行われた時点で談話参加者が 2 名以上のときでも、ある話者の質問や発言に回答・反応していることがわかる場合は、その質問や発言をした話者を聞き手とする。④その発話が行われた時点で談話参加者が 2 名以上で、特に誰かに反応したり、話しかけたりしていない場合は、話し手以外の談話参加者全員を聞き手とする。⑤上の①～④に当てはまらない独語的なものは「聞き手なし」とする（今回扱ったデータは該当なし）。

での談話である。なお、これらの談話資料は自然談話を録音したものであり、調査のために相手や話題などを設定して録音したものではない。そのため、談話参加者は複数名になる。また、以下に記している談話参加者は録音時間すべてを通して談話に参加していない者も含んでいる。つまり、録音時間内で会話の場にいた人物をすべて記している。

表 3 談話資料概要

番号	録音日	録音時間	文字化時間	談話参加者 ⁹⁾	談話詳細
01	2013/05/23	00:40:24	00:40:20	SFF、RES	F 家での雑談
02	2013/08/13	00:03:14	00:03:14	NFM、TFM、(SFF)、(RES)	F 家での雑談
03	2013/08/13	01:01:37	01:01:37	HFM、SFF、NFM、RES、TFM	F 家での雑談（夕食中）
04	2013/08/13	00:02:00	00:01:46	HFM、TFM、(SFF)	F 家での雑談
05	2013/08/13	00:08:45	00:08:45	HFM、SFF、NFM、RES、TFM	F 家での雑談
06	2013/08/13	00:08:46	00:08:40	HFM、SFF、NFM、RES、TFM	F 家での雑談
07	2013/08/13	00:07:29	00:07:29	SFF、NFM、RES、(TFM)	F 家での雑談
08	2013/08/13	00:28:19	00:28:19	NFM、RES、(SFF)、(TFM)	F 家での雑談
09	2013/08/14	00:18:00	00:18:00	NFM、RES、(SFF)	F 家での雑談
10	2013/08/14	00:32:55	00:32:55	HFM、SFF、NFM、RES	F 家での雑談（朝食中）
11	2013/08/14	00:44:38	00:44:38	SFF、NFM、RES、TFM	F 家での雑談（調理をしながら）
12	2013/08/14	00:59:33	00:52:05	SFF、YBM、KBF、NFM、RES、TFM	親戚の集まりでの雑談（F 宅での会食中）
13	2013/08/14	00:58:55	00:58:55	HFM、SFF、YBM、KBF、NFM、RES	親戚で雑談（F 家にて）
14	2013/08/14	01:10:48	01:10:48	HFM、SFF、YBM、KBF、NFM、RES	親戚で雑談（F 家にて）
15	2013/08/14	01:01:06	00:10:20	HFM、NFM、TFM、(SFF)	F 家での雑談
16	2013/08/15	00:19:44	00:19:44	HFM、SFF、NFM、SFM、RES、TFM	F 家での雑談（昼食中）
17	2013/08/15	00:06:00	00:06:00	HFM、SFF、NFM、SFM、RES、TFM	F 家での雑談
18	2013/08/15	00:14:26	00:14:26	SMF、SFF、(RES)	車中での雑談
19	2013/08/15	01:32:21	01:31:56	YOF、SMF、(TIF)、(MIF)、(SFF)、(RES)	YOF 宅での雑談
20	2013/08/15	01:03:23	00:06:14	YOF、SMF、TIF、MIF、HFM、SFF、RES	YOF 宅での雑談
21	2013/08/15	00:57:37	00:57:01	NFM、SFM、RES、(YOF)、(SMF)、(SFF)	YOF 宅での雑談
計		15:30:00	13:10:42	11 名	

3.3.3. 面接調査について

3.3.1 節に記した調査・分析の流れの「⑦分析の補助手段として面接調査も行い、解釈を補強する。」の面接調査の一覧を先に以下表 4 に記しておく。詳細はそれぞれ 5.3.1 節および 6.2.1 節で改めて述べる。

9) 括弧付きのインフォーマントはずっと聞き手であったり、話に割り込んできたものの、すぐに会話の場からいなくなったりして、ほとんど談話に参加していない者をさす。

表 4 面接調査一覧

番号	調査内容	インフォマント	参照
①	聞き手と話題の主語の関係によるテヤ敬語運用の変化についての面接調査	SFF	§ 5.3.1.
③	対者待遇でのテヤ敬語の使用についての面接調査	SFF	§ 6.2.1.

4. 第三者待遇における基本的な運用の体系

まず先に、今回の調査で明らかになった SFF の第三者待遇におけるテヤ敬語の基本的な運用ルールを以下図 3 のフローチャートにまとめる。

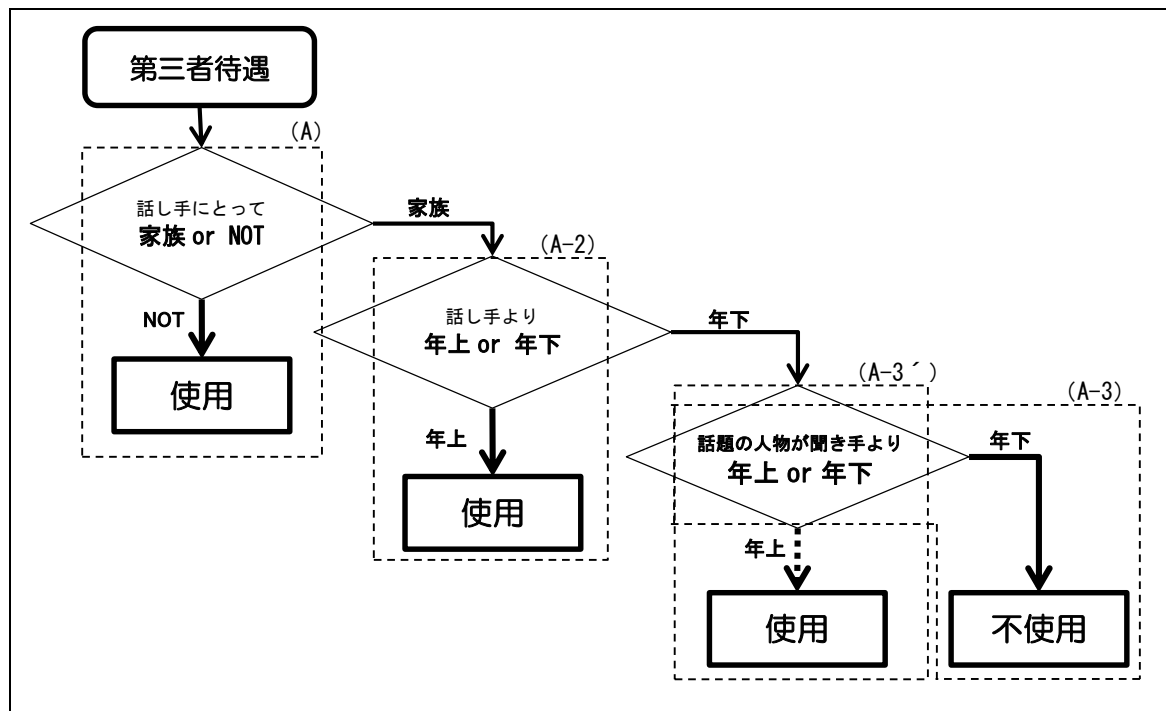


図 3 第三者待遇におけるテヤ敬語の運用フローチャート

図 3 をもとに SFF の第三者待遇におけるテヤ敬語の基本的な運用ルールを以下の (A) ～ (A-3') に成文化する。

(A) : 話し手にとって話題の人物が家族でない場合はテヤ敬語を使用する。

(A-2) : (A) が適用されないとき、話し手よりも話題の人物が年上の場合テヤ敬語を使用する。

(A-3) : (A-2) が適用されないとき、基本的にテヤ敬語は使用しない。

(A-3') : (A-2) が適用されないとき、基本的にはテヤ敬語を使用しないが、話題の人物が聞き手よりも年上の場合にはテヤ敬語を使用することがある。

これら 4 つのルールについて、以下 4.1～4.4 節で談話資料のデータを提示しながら順に説明していく。なお、上記のルールはあくまでも基本的なルールであるため、談話資料中にはこれらのルールに当てはまらない例外が存在する。それらについても、各々の節で説

明を加える。

4.1. (A) 家族／非家族による使い分け

4.1.1. ルール (A) の検証

まず、SFF の自然談話におけるテヤ敬語の使用実態を以下表 5 にまとめる。

表 5 自然談話における SFF のテヤ敬語の使用 (第三者待遇)

年齢	対象(第三者待遇)			計
	家族	親族	親族以外	
上	37(11)	32(2)	24(1)	93(14)
同			1	1
下	5(82)	3(2)	31(6)	39(90)
?		1	29(4)	30(4)
計	42(93)	36(4)	84(11)	162(108)

() 内は普通体(φ)の数を示す

表 5 をみると、家族を除く人物へのテヤ敬語の使用が多いことがわかる (家族：テヤ 42 例、φ 93 例、家族以外：テヤ 120 例、φ 15 例)。家族以外の人物ならば、下の人物に対してもテヤ敬語が使用されており (上：56 例、下：34 例)、基本的には年齢に関わらず、テヤ敬語を用いているようである。また、家族以外の人物であれば、ウチにあたる親族にもソトの人物と同じようにテヤ敬語を使用しているようである。この結果から次のことがといえよう。

(A)：話し手にとって話題の人物が家族でない場合はテヤ敬語を使用する。

(12) は年上の親族、(13) は年下の親族への使用例、(14) は年上の親族以外、(15) は年下の親族以外への使用例である。

(12) 【お盆の集まりでの〈義理の弟②〉の様子について】

〈話題の主語：義理の弟②、聞き手：夫 (HFM)〉

1223HFM (夫)：どうなん、「(弟)」、あんま 飲んでへんのか？やっぱり。

→1224SFF：うん、あんまり 飲んどってない。もう なんか 弱なっちゃった ゆうて ゆうとっちゃったで。(談話 14)

(13) 【姪の部活について】

〈話題の主語：姪、聞き手：義理の妹② (KBF、姪の母親)〉

→926SFF：(前略)「(姪)」ちゃん 部活 なに しとってんかいなー？

927KBF (義妹)：卓球。

928SFF：あ、卓球かー。(談話 13)

(14) 【近所の人について】

〈話題の主語：近所の人②、聞き手：娘 (RES)〉

582HFM (夫)：保健の先生やったんやん。「(近所の人②)」先生 ゆうて。

→583SFF：そうとう ごんべ《いじわる》やったらしいで。養護の先生 しとっ
チャったん。(談話 10)

(15) 【娘 (RES) が友人の車にゴミを忘れてしまったことについて】

〈話題の主語：子どもの友人①、聞き手：娘 (RES)〉

163SFF：普通はな一、普通は あんた 車の人が ほんなもんは 持って帰る
んやで あんた。#### あんた。あー ほんでも あんた ほこ
まで 送ってもうたんか。

164RES (娘)：うん、そう。

→165SFF：ふん、「ごめん」ゆうて ゆうときなん。「(子どもの友人①)」ちゃん
に あんた アイスクリューム 1 本ぐらい あげといたら よかったのに。
「(子どもの友人①)」ちゃんは どうなん？もう 運転 しとっテン？

166RES：うん、普通に。(談話 03)

なお、家族以外の人物にも普通体 (φ) を使用している場合も 15 例ある。この 15 例は
上記 (A) の規則に当てはまっても、必ずテヤ敬語が使用されるわけではないことを
示している。これらの用例は、ほとんどの人物に対して 1 例ずつ (ただし、〈子どもの先生
①〉と〈教え子②〉は 2 例ずつ) であるため、これら 15 例は例外として扱い、次の 4.1.2
節でその説明を試みる。

4.1.2. 例外の説明

表 5 をみると、家族以外への使用の中でもルール (A) に当てはまらない用例が 15 例存
在する。それらについて、説明を加える。条件は満たしているものの、普通体を使用し
ている人物は 13 名で、そのうち 1 度でもテヤ敬語を使用しているのは 9 名の 10 例、テヤ敬
語を一切使用せず普通体のみを使用しているのは 4 名の 5 例である。これらの例外につい
て以下表 6 で説明を加える。

表 6 ルール (A) の例外

考えられる原因	説明と該当例	該当数	話題の人物
テ形で中止	該当の動詞述語部分がテ形で中止しており、分析対象かつ生起可能ではあるもののテヤ敬語が出現しにくい環境であったためと考えられる。(該当例外) 90 なんぼで 自転車 乗って 怖いわ。	3	近所の人③、子どもの先生①、子どもの先生⑦
接続助詞「けど」	接続助詞「けど」の前は、生起可能ではあるものの、テヤ敬語が出現しにくい環境のようである。(該当例外) 妹は、ちょっと キャピキャピ しとるけど。	5	義理の弟①、近所の子ども①、馴染みの店の店員、教え子の妹、教え子①
接続助詞「さかい」	接続助詞「さかい」の前は、テヤ敬語が出現しにくい環境のようである。(該当例外) 『甥』ちゃんが 帰ってきたさかい 助かったけど、もう。	2	甥、教え子①
動詞述語の後の名詞／形容詞述語	分析対象は文中の最後の動詞述語部分であるが、その後に名詞述語部分があるため、最後の動詞述語部分にテヤ敬語があらわれにくかったためだと考えられる。(該当例外) うん。ほんで、いつ、いつも 扇子を 持っとるでな、ほったら 聞いたら やっぱり 落研やったんやって。	1	子どもの先生①
不明	特別な原因は考えられなかった。(該当例外) 無かったら あんた、おっちゃん 焼酎 飲めんで。／そんなことゆうとったん？『姪』ちゃん。／あの子 どうなったん？あれから。／だから、例えばな、この子やったら、もう あんた、男子 1人に なったんや。	4	義理の弟②、姪、子どもの友人③、教え子②

表 6 をみると、おおよそのものについては形態的な出現環境によって説明できる。ただし、原因不明のものも 4 例残っている。これら 4 例はどれも話題の人物が親族であるため、親族の人物については、家族へのルール (cf. (A-2)) と混用してしまうことがあるのかもしれない。また、〈教え子①〉〈教え子②〉など、明らかな上下関係が存在している場合はテヤ敬語を使用しないのかもしれない。

4.2. (A-2) 年上／年下による使い分け

4.2.1. ルール (A-2) の検証

それでは次にルール (A) が適用されない家族についてみていく。表 7 で SFF の家族へのテヤ敬語の運用を再確認する。

表 7 自然談話における SFF のテヤ敬語使用の詳細（家族に対する第三者待遇）¹⁰⁾

話題の人物	年 齢	第三者	
		テヤ	Φ
家族			
父親(故人)	▲	2	
母親	▲	7	3
義理の父(故人)	▲	3	
義理の母(故人)	▲	1	
姉	▲	1	
夫	▲	23	8
長男	▼		1
次男	▼	2	12
娘	▼	1	2
三男	▼	2	67

表 7 をみると、SFF より年上である 6 名には基本的にテヤ敬語を用いていることがわかる。この結果から、以下のことがといえよう。

(A-2) : (A) が適用されないとき、話し手よりも話題の人物が年上の場合テヤ敬語を使用する。

(16)、(17) は年上の家族へのテヤ敬語の使用例である。

(16) 【モロヘイヤがよく食卓に出たという話題で】

〈話題の主語：義理の父親、聞き手：長男 (NFM)、娘 (RES)〉

402NFM (長男)：うーん、モロヘイヤ 知ってない人も おってや。

→403SFF：うーん、でも おじいちゃんが 作とっチャったでな一。

404RES (娘)：あ、そうなん？ (談話 11)

(17) 【叔母が墓参りに行くかどうかについて】

〈話題の主語：母親 (YOF)、聞き手：娘 (RES)〉

180RES (娘)：え 明日 普通、え、一緒に お墓参り してん？

→181SFF：うーん、「叔母」ちゃんは もう 別に、『実家の地名』の墓まで 参ってもらわんでも。おばあちゃんも 行ッテないのに。そんな 行ッてん 必要ない。 (談話 11)

なお、〈母親〉に 3 例、〈夫〉に 8 例の普通体 (Φ) を用いているが、ともに全数の 30% 以下であるので、これら 11 例は例外とした。以下 4.2.2 節で例外について説明する。

4.2.2. 例外の説明

表 7 をみると、ルール (A-2) に当てはまらない例外が 11 例存在する。条件は満たしているものの、普通体を使用している人物は〈母親〉と〈夫〉の 2 名であるが、どちらも全体の 70% はテヤ敬語を使用している。以下表 8 で 11 例の例外について説明する。

10) 以下、詳細な結果を示した表においては、SFF より年上の場合は「▲」、同じ場合は「●」、年下の場合は「▼」とあらわす。

表 8 ルール (A-2) の例外

考えられる原因	説明と該当例	該当数	話題の人物
テ形で中止	該当の動詞述語部分がテ形で中止しており、分析対象かつ生起可能ではあるもののテヤ敬語が出現しにくい環境であったためと考えられる。(該当例外) 焼酎が 切れたさかい ゆうて、それ ぜーんぶ 飲んで。	3	夫 (2)、母親
接続助詞 「さかい」	接続助詞「さかい」の前は、生起可能ではあるものの、テヤ敬語が出現しにくい環境のようである。(該当例外) ほんで 葉 高い 高い ゆうとったさかい 「止めていいんちゃう？」ゆうて。	2	夫 (2)
動詞述語の後の 名詞／ 形容詞述語	分析対象は文中の最後の動詞述語部分であるが、その後に名詞述語部分があるため、最後の動詞述語部分にテヤ敬語があらわれにくかったためだと考えられる。(該当例外)	1	母親
スタイルの統一 (謙称を用いたとき)	カジュアル場面での会話ではあるが、挨拶などのやや改まった場面などで、話題の人物を「母」「主人」などの謙称であらわした場合は、テヤ敬語はあらわれない。(該当例外) 主人が、来てくれ ゆうたら、まー あの、なんなっと して、	2	夫、母親
不明	特別な原因は考えられなかった。(該当例外) 自分の ゆうたこと よー 忘れとるし、もう。／心配やけどー、だから たぶん カロリー 摂ってへんのやって。／晩ご飯作って、『三男』 ご飯やでー ゆうたら 「おれへん」て ゆうんや。	3	夫 (3)

表 8 をみると、おおよそのものについては形態的な出現環境によって説明できる。また、今回は「スタイルの統一（謙称を用いたとき）」をテヤ敬語不使用の原因として挙げたが、それを考慮すると、フォーマルな場面では家族にはテヤ敬語を用いない可能性が高い。なお、原因不明のものも 3 例残っている。

4.3. (A-3) (A-3') 年上／年下による使い分け

4.3.1. ルール (A-3) の検証

それでは次にルール (A-2) が適用されない場合についてみていく。表 9 で (A-2) が適用されない年下の家族へのテヤ敬語使用の詳細を確認する。

表 9 SFF のテヤ敬語使用（年下の家族に対する第三者待遇）①

話題の人物	年齢	第三者	
		テヤ	Φ
家族			
長男	▼		1
次男	▼	2	12
娘	▼	1	2
三男	▼	2	67

表 9 をみると、SFF は 4 名の子どもたちに基本的には普通体を用いていることがわかる。この結果から、以下のことが導けよう。

(A-3) : (A-2) が適用されないとき、基本的にテヤ敬語は使用しない。

ただし、〈次男〉に 2 例、〈娘〉に 1 例、〈三男〉に 2 例テヤ敬語を用いている。これら 5

例については続く 4.3.2.節で (A-3') として説明する。

4.3.2. ルール (A-3') の検証

テヤ敬語を用いている 5 例についてみていく。先に結論をいうと、これらは以下の規則によるものである。

(A-3') : (A-2) が適用されないとき、基本的にはテヤ敬語を使用しないが、話題の人物が聞き手よりも年上の場合にはテヤ敬語を使用することがある。

この (A-3') を以下で検証する。表 10 では (A-3') を確認するため、「話題の人物が聞き手より上／下」の列を設けた。これは、第三者待遇で、話題の人物が聞き手よりも年上か年下かをあらわす¹¹⁾。

表 10 SFF のテヤ敬語使用（年下の家族に対する第三者待遇）

話題の人物	年齢	第三者 話題の人物が聞き手より			
		上		下	
		テヤ	Φ	テヤ	Φ
長男	▼		1		
次男	▼	2	7		3
娘	▼	1			3
三男	▼			2	67

表 10 をみると、5 例中 3 例が、話題の人物は話し手よりも年下であるが、聞き手よりは年上である場合にテヤ敬語があらわれている。この 3 例のテヤ敬語があらわれている場面を具体的に (18) で確認する。(18) において、話題の人物である〈娘 (RES)〉は、SFF よりも年下であるが、聞き手の〈三男 (TFM)〉よりは年上である。

(18) 【娘 (RES) の服の色について】

〈話し手 : SFF、話題の主語 : 娘 (RES)、話し相手 : 三男 (TFM)〉

215RES (娘) : それは 青やろ？

216TFM (三男) : うん。

217SFF : それは 紺や。まー あの 折り紙の 紺色と 比べてみな。

218TFM (三男) : え、どしたん？青色の服 あります？って 買ったものの…

→219SFF : いや 違うってな「娘 (RES)」ちゃんが 青色や ゆうて ゆうとつ
テヤさかいに。(談話 03)

この「話題の人物が聞き手よりも年上の場合にはテヤ敬語を使用することがある」という現象を確認するため、SFF に以下のような簡易的な面接調査を行った。

11) (例) 話し手 : SFF、話題の人物 : 〈娘〉、聞き手 : 〈夫〉の場合。話題の人物の〈娘〉は聞き手の〈夫〉よりも年下なので、「下」の列に集計される。聞き手が複数の場合は聞き手のうちで一番年下であるものを基準に集計した。

面接調査①：「聞き手と話題の主語の関係性によるテヤ敬語運用の変化についての面接調査」

「聞き手〇〇」と「話題の人物△△」をそれぞれ設定して、聞き手と話題の人物の上下関係がどのように影響するかを調査・分析した。

(調査文)「(聞き手) 〇〇に、(話題の人物) △△が USJ (大阪にあるテーマパーク) に行ったことを伝えるとき、どのように言いますか？」(自由回答)

面接調査①の結果は以下表 11 の通り。

表 11 聞き手と話題の主語の関係性によるテヤ敬語運用の変化 (面接調査より)

		話題の人物			
		夫	母親	長男	三男
聞き手	夫		×	×	×
	母親	●		×	×
	長男	●	●		×
	三男	●	●	●	

凡例：テヤ敬語→●、テヤ敬語なし→×、文末の「です／ます」→▼

まず、表 11 の聞き手が家族である場合を確認する。話題の人物が〈夫〉であるときは、どの聞き手の場合にもテヤ敬語を使用している。また、話題の人物が〈三男〉であるときは、聞き手が誰であってもテヤ敬語を使用していない。これはルール (A-2) と (A-3) の通りである。しかし、話題の人物が〈母親〉であるときは、聞き手が〈夫〉の場合はテヤ敬語を使用せず、聞き手が話題の人物の〈母親〉よりも年下である〈長男〉・〈三男〉の場合はテヤ敬語を使用している。さらに、話題の人物が〈長男〉であるときは、聞き手が〈夫〉・〈母親〉の場合にはテヤ敬語を使用せず、聞き手が話題の人物の〈長男〉よりも年下である〈三男〉のときだけテヤ敬語を使用している。特に、〈長男〉は SFF にとって年下であり、普通ならばテヤ敬語で待遇する対象ではないにも関わらず、聞き手が〈三男〉である場合だけテヤ敬語を使用しているのである。話題の人物が〈母親〉・〈長男〉の場合の結果から、同一の話題の人物であっても、話題の人物と聞き手の関係性によってテヤ敬語の使用／不使用が変化していることがわかる¹²⁾。

これらの結果から、(A-2) が適用されないとき、基本的にはテヤ敬語を使用しないが、話題の人物が聞き手よりも年上の場合にはテヤ敬語を使用することがあるといえよう。ただし、(A-3) と (A-3') のどちらが優先されるかは今回の調査では判断しがたい。しかし、それはともかくとして、福知山市方言におけるテヤ敬語は、聞き手が誰であるかということも運用に強く影響しているようである。

では、最後に〈三男〉への 2 例のテヤ敬語使用について、以下の 4.3.3 節で確認する。

12) ただし、面接調査の結果のうち、話題の人物が〈母親〉で聞き手が〈夫〉の場合にテヤ敬語を使用していない。この結果はルール (A-2) に反している。この場合は、話題の人物である〈母親〉と聞き手である夫を比べ、〈母親〉をウチ、夫をソトとみなし、ウチである〈母親〉へテヤ敬語を使用しなかったのではないだろうか。

4.3.3. 例外の説明

残る 2 例について以下で確認する。以下 (19) は SFF が三男 (TFM) にテヤ敬語を使用している例である。

(19) 【娘 (RES) と三男 (TFM) の学習の様子を比較して】

〈話し手：SFF、話題の主語：三男 (TFM)、聞き手：娘 (RES)〉

764SFF：の、なれへんが。ほんでな一、(RES：うん。) あんた いっつも 泣きながら 英語の、{笑いながら} 復習じゃないわ、予習、

765RES (娘)：泣きながらってか、ひーひー言いながらやろ？

766SFF：うん、しとったやろ？

767RES (娘)：うん。

→768SFF：なんか、余裕 こいとっテンやけど一、(談話 01)

SFF にとって三男 (TFM) は家族であるので、本来ならばルール (A-3) にのっとってテヤ敬語を用いない人物である。また、聞き手の RES は三男 (TFM) の姉であるので、ルール (A-3') が作用してテヤ敬語を使用することもない。しかし、(19) ではテヤ敬語を使用している。(19) は SFF が高校生の息子が予習をしていない様子を嘆いている場面であるが、ここであえてテヤ敬語を使用することで皮肉のニュアンスを出しているようにみえる。このような用法は共通語敬語にもみられる (菊地 1997)。これを語用論的な用法として、「普通はテヤ敬語を用いない人物に対しても、皮肉のニュアンスでテヤ敬語を使用することがある」と記しておこう。

この用法に関して、簡易的な面接調査を SFF に行ったところ、皮肉を言うような場面では「テヤ敬語を使うとしても）そんなに違和感がない」「感情に任せて言うかもしれない」というコメントを得た。このことから、皮肉のニュアンスというよりは、感情的になったときに例外的なテヤ敬語の使用があるようである。

もう 1 例のテヤ敬語の使用は具体的な説明を加えることができなかった。以下にその用例を掲載しておく。

(20) 【TFM の夏休みについて】

〈話し手：SFF、話題の主語：三男 (TFM)、聞き手：娘 (RES)〉

903RES：え、『てっちゃん』 夏休み 旅行 行った？

904SFF：行ってへん。

905RES：じゃ 今度 大阪 遊びに 来なん、また。

→906SFF：研修旅行 行っちゃっただけ。

907RES：あ、そうなん？

908SFF：うん。(談話 03)

5. 対者待遇における基本的な運用の体系

まず、今回の調査で明らかになった SFF の対者待遇におけるテヤ敬語の基本的な運用ルールを以下図 4 のフローチャートにまとめる。

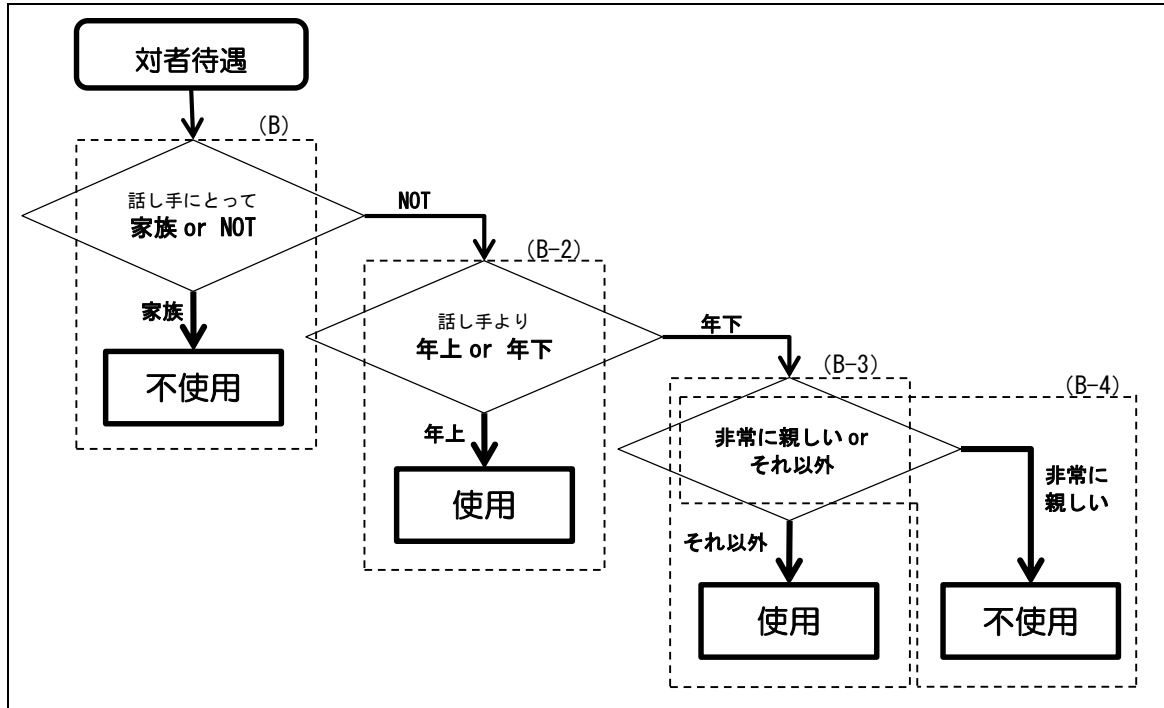


図 4 対者待遇におけるテヤ敬語の運用フローチャート

図 2 をもとに SFF の対者待遇におけるテヤ敬語の基本的な運用ルールを以下の (B) ～ (B-4) に成文化する。

(B) : 話し手にとって聞き手 (=話題の人物) が家族である場合はテヤ敬語を使用しない。

(B-2) : (B) が適用されないとき、話し手よりも聞き手 (=話題の人物) が年上の場合テヤ敬語を使用する。

(B-3) : (B-2) が適用されないとき、聞き手 (=話題の人物) が話し手と非常に親しい場合はテヤ敬語を使用しない。

(B-4) : (B-3) が適用されないとき、テヤ敬語を使用する。

これら 4 つのルールについて、以下 5.1～5.4 節で談話資料のデータを提示しながら順に説明していく。なお、4 節と同様、これらのルールに当てはまらない例外についても、各々の節で説明を加える。

5.1. (B) 家族／非家族による使い分け

5.1.1. ルール (B) の検証

まず、SFF の自然談話におけるテヤ敬語の使用実態を以下表 12 にまとめる。

表 12 自然談話における SFF のテヤ敬語使用（対者待遇）

話題の人物	年齢	対者	
		テヤ	Φ
家族			
母親	▲		4
夫	▲		9
長男	▼		21
次男	▼		12
娘	▼	1	108
三男	▼		24
親族			
叔母	▲	4	3
義理の弟②		4	1
義理の妹②	▼		2

表 12 から、話題の人物が家族である場合の対者待遇でのテヤ敬語の使用は、〈娘〉への 1 例を除くと、対者待遇ではテヤ敬語を一切使用していないことがわかる。この結果から、次のことがいえよう。

(B)：話し手にとって聞き手（＝話題の人物）が家族である場合はテヤ敬語を使用しない。

5.1.2. 例外の説明

表 12 で、聞き手（＝話題の人物）が家族である場合に〈娘〉へ 1 例テヤ敬語の使用があったが、例外として扱っている。この場面について説明を加える。〈娘〉へのテヤ敬語の使用は以下 (21) の場面で起こった。

(21) 【三男 (TFM) の担任の教師について】

〈話し手：SFF、聞き手：RES〉

841RES：てか、たぶん この人 わたしん時 おって なかったんやけど、どっこっから 来ちゃったん？

→842SFF：あんたが一、終わっちゃってから、{笑いながら} 終わっちゃってからやって。(RES：{笑い}) 卒業してから、来ちゃったかな。(談話 02)

この場面で SFF は、〈娘〉へテヤ敬語を使用した直後に笑いながら言い直している。おそらく、話し手である SFF 自身がこの場面での〈娘〉へのテヤ敬語の使用は不適格と判断したと推察できる。この例を除くと、話題の人物が家族であるとき、対者待遇ではテヤ敬語を一切使用していない。

5.2. (B-2) 年上／年下による使い分け

5.2.1. ルール (B-2) の検証

5.2.1.1. 自然談話より

続いて表 12 の親族の欄をみると、〈叔母〉と〈義理の弟②〉にテヤ敬語を使用している。それぞれ 4 例ずつで、テヤ敬語使用は全体の半数以上を占めている。対して、〈義理の妹②〉にはテヤ敬語を使用していない。(22) は〈叔母〉へのテヤ敬語の使用例である。

(22) 【叔母 (SMF) の年齢について】

〈話し手：SFF、聞き手：叔母 (SMF)〉

→084SFF：あー。そうやなー。え ほんでも 5つ違い ゆうたら どうなん、
おばちゃん、も 80 には なっちゃったん？

085SMF：なったん、今年、満。

086SFF：あ、そうかー。母が 85 に なったでな、こないだ。おばちゃん 何
月生まれなん？

087SMF：2 月。

088SFF：あ、2 月か。(談話 18)

テヤ敬語を使用している〈叔母〉と〈義理の弟②〉は年上で、対してテヤ敬語を使用していない〈義理の妹②〉は年下である。第三者待遇で話題の人物が親族の場合は、家族以外にあたるためルール (A-2) として提示したように年齢・上下関係に関わらずテヤ敬語を使用するが、対者待遇の場合はテヤ敬語使用に年齢が関わっているようである。

5.2.1.2. 面接調査より

今回の自然談話は身内での会話であるため、対者待遇での話題の人物 (= 聞き手) のバリエーションが限られてしまった。バリエーションを補うために、対者待遇ではどのような枠組みでテヤ敬語が用いられるのかを確認するため、以下のような面接調査を行った。

面接調査②：「対者待遇でのテヤ敬語の使用についての面接調査」

(調査文)「これから道や店 (自宅以外の公共の場所) でばったり出会う場面を想像してください。これからいろいろな人物を設定するので、「これからどこに行くか」訊いてください。」(自由回答)

設定する人物

実際の人物を SFF に具体的に想定してもらい、それぞれの人物を以下のように範疇化して調査・分析した。

ウチ (家族)：同居していた親族のことで、自身の親・兄弟、同居していた義理の親、子ども・孫など。

ウチ (親族・血族)：家族を除く親族のうち、特に血族の関係にある者。

ウチ (親族・姻族)：家族を除く親族のうち、特に姻族の関係にある者。

ソト (親)：非親族で、そのうち親しい者。

ソト (疎)：非親族で、そのうちあまり親しいとは言えない者。

では、以下の表 13 で、上記の面接調査②の結果を示す。

表 13 テヤ敬語の使用についての面接調査結果（対者待遇）

カテ ゴリ		ウチ (家族)				ウチ(親 族・血族)			ウチ (親族・姻族)						ソト (親)				ソト (疎)					
		下	同	上		下	同	上	下		同	上		下		同	上	下		同	上			
対 者		三男	夫	姉	母親	姪	—	叔母	姪	義理の妹	義理の弟	義理の兄	夫の叔母	義理の母親	義理の父親	子どもの幼なじみ	職場の新人	職場の後輩	職場の同僚	職場の先輩	子どもの友人	近所の人	—	近所の人
性別		男	男	女	女	女	—	女	女	女	男	男	女	女	男	女	男	男	女	女	男	男	—	男
年齢		▼	▲	▲	▲	▼		▲	▼	▼	▲	▲	▲	▲	▲	▼	▼	▼	●	▲	▼	▼		▲
テヤ敬語		×	×	×	×	×	—	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	—	○
語末の丁寧語		×	×	×	×	×	—	×	×	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	—	○
談話でのテヤ敬語	対者	×	×	—	×	—	—	○	—	×	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第三者	○	○	○	○	—	—	○	—	—	○	—	—	○	○	○	—	—	○	—	—	—	—	—

凡例：テヤ敬語使用→○、テヤ敬語なし→×、回答・結果が得られなかったもの→—

表 13 をみると、「家族」カテゴリの人物には一切テヤ敬語を使用しないという回答であった。これは 5.1 節で提示したルール (B) と合致する。また、調査の際は親族を「血族／親族」にわけて質問したが、結果はどちらも基本的には年上にはテヤ敬語を使用し、年下には使用しないという回答となった¹³⁾。また、ソトの人物にも年上であった場合はテヤ敬語を使用している。この結果から、次のことがいえよう。

(B-2)：(B) が適用されないとき、話し手よりも聞き手 (=話題の人物) が年上の場合テヤ敬語を使用する。

なお、語末の丁寧語 (です・ます) をつけているのは男性に対してのみだった。

5.2.2. 例外の説明

さきほど、「(B-2)：(B) が適用されないとき、話し手よりも聞き手 (=話題の人物) が年上の場合テヤ敬語を使用する」が成立すると、説明した。だが、表 12 には〈叔母〉に 3 例、〈義理の弟②〉に 1 例普通体を使用している。これら 4 例について以下で説明する。(23) ～ (26) は例外の 4 例である。

(23) ほんで もう、動けるん？ (談話 13)

(24) ほんなら、おばちゃんも ビール 飲めるやろ、ちょっと。 (談話 20)

(25) 飲めんの？ 全然。 (談話 20)

(26) ほな 6 年生ん時に 1 年生 入ったゆうことか。 (談話 20)

(23) ～ (26) はすべて可能形・可能否定形のかたちである。結果論になるが、可能形・

13) 面接調査では、〈義理の妹〉へ対者待遇でテヤ敬語を使用するという回答であった。これはルール (B-2) に反する結果だが、実際の談話では設定した人物と同一である〈義理の妹②〉にはテヤ敬語を用いていなかったため、ルール (B-2) を覆す回答ではないと判断した。

可能否定形はテヤ敬語が出現しにくい環境なのかもしれない¹⁴⁾。(26)は原因不明である。だが、全体として姻族である〈義理の弟②〉よりも血族である〈叔母〉の方がテヤ敬語不使用の割合が多く、家族(ルール(B))よりの運用がなされているのかもしれない。

5.3. (B-3) (B-4) 親／疎による使い分け

5.3.1. ルール(B-3) (B-4) の検証

それでは、(B-2)が適用されない親族の年下とソトの年下について確認する。表13より、テヤ敬語を使用していないのは、「親族・血族」の〈姪〉、「親族・姻族」の〈姪〉、「ソト(親)」の〈子どもの幼なじみ〉〈職場の新人〉であった。対して、テヤ敬語を使用しているのは、「親族・姻族」の〈義理の妹〉、「ソト(親)」の〈職場の後輩〉、「ソト(疎)」の〈子どもの友人〉〈近所の人〉であった。テヤ敬語を使用していないのは普段から交流のある親族や、ソトの人物でも親しい人物がほとんどだった。テヤ敬語を使用していない〈子どもの幼なじみ〉や〈職場の新人〉については、「子どもと一緒に年ごろ」「小さい頃から知っている」というSFFからのコメントがあった。反対に、ソトであまり親しくない「ソト(疎)」カテゴリの人物にはテヤ敬語を使用している。以上のことから、以下のことが導けよう。

(B-3) : (B-2) が適用されないとき、聞き手(=話題の人物)が話し手と親しい場合はテヤ敬語を使用しない

(B-4) : (B-3) が適用されないとき、テヤ敬語を使用する。

なお、「親族・姻族」の〈義理の妹〉と「ソト(親)」の〈職場の後輩〉へのテヤ敬語使用は例外として5.3.2節で説明する。

また、同じくテヤ敬語を用いているときでも、丁寧語を用いる場合と丁寧語を用いない場合があるが、「ウチ(親族・血族)」、「ウチ(親族・姻族)」の人物に対しては、男性には丁寧語を使用し、女性には使用していない。「ソト」の人物に対しては年上の人物に丁寧語を使用している。

5.3.2. 例外の説明

「親族・姻族」の〈義理の妹〉と「ソト(親)」の〈職場の後輩〉については、(B-3)のルールではテヤ敬語を使用しないということになるが、SFFはテヤ敬語を使用するという回答であった。まず、〈義理の妹〉については、自然談話ではテヤ敬語を使用していない。意識と実態では差が生じるものであるから、ここでは実態を優先して、この面接調査結果は(B-3)に相反するが、覆すものではないと考える。次に「ソト(親)」の〈職場の後輩〉へのテヤ敬語使用についてだが、そもそも「親しい場合」という基準が非常にあいまいなものである。面接調査ではSFFに親しいソトの人物として〈職場の後輩〉を挙げてもらったが、テヤ敬語運用における親しさと普段の親しさの程度に差があるのかもしれない。そもそも(B-3)自体がかなりあいまいで漠然としていることは否めないが、現時点ではこのように定めておく。

14) なお、第三者待遇におけるルール(A)の例外で「原因不明」としたものの中にも、可能否定形が1例含まれている。

6. 考察

まず、4節と5節で説明したSFFの基本的なテヤ敬語の運用ルールをまとめて再掲する。
なお、以下のルールは家族・親族内における会話でのルールである。

A群：第三者待遇において

- (A)：話し手にとって話題の人物が家族でない場合はテヤ敬語を使用する。
- (A-2)：(A)が適用されないとき、話し手よりも話題の人物が年上の場合テヤ敬語を使用する。
- (A-3)：(A-2)が適用されないとき、基本的にテヤ敬語は使用しない。
- (A-3')：(A-2)が適用されないとき、基本的にはテヤ敬語を使用しないが、話題の人物が聞き手よりも年上の場合はテヤ敬語を使用することがある。

B群：対者待遇において

- (B)：話し手にとって聞き手(=話題の人物)が家族である場合はテヤ敬語を使用しない。
- (B-2)：(B)が適用されないとき、話し手よりも聞き手(=話題の人物)が年上の場合テヤ敬語を使用する。
- (B-3)：(B-2)が適用されないとき、聞き手(=話題の人物)が話し手と非常に親しい場合はテヤ敬語を使用しない。
- (B-4)：(B-3)が適用されないとき、テヤ敬語を使用する。

第三者待遇と対者待遇の運用ルールを比較すると、以下のことが確認できる。

- ①第1のファクターはともに「家族／非家族」。
- ②第2のファクターもともに「年上／年下」。
- ③第三者待遇では第3のファクターとして、序列敬語的なものが確認できる。
- ④対者待遇では第3のファクターとして、「親／疎」がある。

それぞれについて、6.1～6.4節で考察を加える。

6.1. 最初の条件「家族／非家族」

まず、第三者待遇・対者待遇ともに最初のファクターは「家族／非家族」であった。このことから、SFFのウチ／ソトの区分は家族と家族以外(親族も家族以外に含まれる)であることがわかる。これに関連して、永田(2001)は「かつては叔父叔母を含んだ大家族が家族内という概念でとらえられていたのに対し、現在では核家族が家族内で叔父や叔母はソトの人と見られるようになっていくと解釈できる」(p.241)と述べている。つまり、SFFは、親族をソトとみなしており、そのように考えると、今回の調査では、談話の聞き手は家族または親族のみであったが、SFFが親族をソトとみなしているとする、今回提示した運用ルールは家族・親族内だけでなく、ソトの人物にも同じように適用されるのではないだろうか。

また、「家族／非家族」というファクターは同じでも、選択肢による処理は違っており、第三者待遇では家族ではない相手には一律にテヤ敬語を使用し、対者待遇では家族には一律にテヤ敬語を使用しない。現代を生きる話者にとって、家族と家族以外を比べると、もちろん家族以外が話者の生きる世界の構成員の大部分である。第三者待遇では最初の処理だけで「家族以外」という大部分の人物へのテヤ敬語使用を決定するが、対者待遇では最初の段階では家族へのテヤ敬語不使用が決定するだけで、家族以外の人物にはまだ別のフ

アクターを経ないとテヤ敬語使用が決定されない。この処理の違いによって、第三者待遇と対者待遇を比べると、第三者待遇の方が、テヤ敬語出現頻度が高くなることが考えられる。福知山市方言におけるテヤ敬語の第三者待遇と対者待遇での出現頻度の差に関連して、宮治（1987）は「近畿方言における待遇表現上の一特質」として、近畿方言において素材待遇語が第三者待遇の場合に偏用されるという現象をあげている。福知山市方言におけるテヤ敬語に限っていえば、第三者待遇と対者待遇の運用ルールの違いによって出現頻度の差が生じているといえよう。

6.2. 第2のファクター「年上／年下」

第三者待遇・対者待遇ともに2番目のファクターは「年上／年下」であった。菊地（1997）は、言葉づかいにかかわる最も基本的なファクターとして上下関係をあげている。さらに、その上下関係として、社会地位の上下、親族関係の上下、年齢の上下などの種類があるとしているが、SFFのテヤ敬語運用についていえば、それら上下関係の中で最優先されるのは年齢の上下関係であった。例えば、親族関係における上下関係では目下にあたる〈義理の弟〉たちにも年上というファクターをクリアしているので、テヤ敬語を使用している。親族関係の上下よりも、年齢の上下を優先させていることがわかる。

6.3. 第三者待遇における序列敬語的なファクター

続いて、第三者待遇における序列敬語的な用法について考察を加える。まず、永田（2001）は第三者に対する待遇表現を決定する基準として、以下4つの可能性をあげている。

- ①第三者が話し手にとってどのような身分に位置するか（絶対敬語）
- ②第三者が話し手と聞き手の間でどのような身分に位置するか（身分敬語）
- ③第三者が話し手や聞き手にとって目上であるか、目下であるか（序列敬語）
- ④第三者が話し手側の人物であるか、聞き手側の人物であるか（相対敬語）

今回の調査によって「(A-3') : (A-2)」が適用されないとき、基本的にはテヤ敬語を使用しないが、話題の人物が聞き手よりも年上の場合はテヤ敬語を使用することがある」というルールを明らかにした。このルールは「話し手と第三者の関係より、聞き手と第三者の序列によって待遇表現が決定される体系」（永田 2001 : 8）である序列敬語に類似する。ただし、序列敬語は話し手と第三者の関係性よりも、聞き手と第三者の関係性が優先されるが、SFFのテヤ敬語使用はどちらが優先されるかどうか断言することができない。しかし、ともかくとして、SFFのテヤ敬語運用には序列敬語的な要素が存在し、聞き手と第三者の関係性がテヤ敬語の運用に影響を及ぼしているということは間違いなからう。

6.4. 対者待遇における第3のファクター「親／疎」

最後に、対者待遇においてのみ、親／疎という条件が存在した。ウチ／ソトや年齢の上下は社会的な条件であるにもかかわらず、親／疎だけが心理的な条件のように見える。しかし、菊地は使い分けに関する諸ファクターについて、「親疎の関係」を「上下の関係」「立場の関係」「内／外の関係」と同じように「人間関係」のファクターとしてまとめている。

その理由について、心理的ファクターとしての面もあるとしたうえで、「「初対面なのだから、まだあまり親しい口をきく状況ではない」などというように社会的な状況を把握し、社会的に期待される言葉づかいを計算する——というプロセスにおけるファクターという意味で、まずは社会的ファクターの中に含めた」(p.57)と説明している。菊地(1997)の分類にしたがうと、結局、SFFのテヤ敬語運用はすべて人間関係だけで決定されていることがわかる。

7. まとめ

本稿では、京都府福知山市方言におけるテヤ敬語について、SFF(51歳・女性)の家族・親族内での会話を調査することで、以下のような運用ルールを提示した。

A群：第三者待遇において

- (A)：話し手にとって話題の人物が家族でない場合はテヤ敬語を使用する。
- (A-2)：(A)が適用されないとき、話し手よりも話題の人物が年上の場合テヤ敬語を使用する。
- (A-3)：(A-2)が適用されないとき、基本的にテヤ敬語は使用しない。
- (A-3')：(A-2)が適用されないとき、基本的にはテヤ敬語を使用しないが、話題の人物が聞き手よりも年上の場合はテヤ敬語を使用することがある。

B群：対者待遇において

- (B)：話し手にとって聞き手(=話題の人物)が家族である場合はテヤ敬語を使用しない。
- (B-2)：(B)が適用されないとき、話し手よりも聞き手(=話題の人物)が年上の場合テヤ敬語を使用する。
- (B-3)：(B-2)が適用されないとき、聞き手(=話題の人物)が話し手と非常に親しい場合はテヤ敬語を使用しない。
- (B-4)：(B-3)が適用されないとき、テヤ敬語を使用する。

これらのルールをみるかぎり、身内尊敬用法があるといっても、敬語形式の適用範囲、つまり、敬語形式を用いる人間関係に家族(身内)が含まれているだけであり、運用にかかわるそれぞれのファクターは共通語敬語(他者尊敬用法)と大きな違いはなかった。ただし、序列敬語的な運用が確認できることから、相対敬語的な共通語敬語の流れと比べ、やや絶対敬語的な様相を保持しているとはいえよう。

【参考文献】

- 菊地康人(1997)『敬語』講談社学術文庫。
- 小西いずみ・井上優(2013)「富山県呉西地方における尊敬形『～テヤ』一意味・構造の地域差と成立・変化過程」『日本語の研究』9-3, pp.33-46, 日本語学会。
- 篠原玲子(2005a)「尊敬語運用の意識と実態—姫路市方言のテ敬語使用者を事例として—」大阪大学大学院文学研究科修士論文(未刊行)。
- 篠原玲子(2005b)「尊敬語運用の意識と実態—姫路市方言のテ敬語使用者を事例として—」『第80回研究発表会発表原稿集』pp.49-56, 日本方言研究会。
- 永田高志(2001)『第三者待遇表現史の研究』和泉書院。
- 藤原与一(1978)『方言敬語法の研究』春陽堂。

村上謙（2006）「近世前期上方における尊敬語表現『テ+指定辞』の成立について」『日本語の研究』2-4, pp.17-32 日本語学会.

山崎久之（1963）『国語待遇表現体系の研究』武蔵野書院.

ふくい あや（大阪大学学部卒業生）